

## 法王、カナダを訪問

法王フランチェスコは、2022年7月24日より30日までカナダを訪問した。この訪問は、現法王にとって、イタリア以外の司牧の旅としては37回目になり、訪れた国としては56カ国目となる。今回は、カナダ先住民への謝罪のための司牧の旅であった。カナダ政府は、1863年から1996年までの約150年間、先住民族を抹消するために「居住学校」を作り、そこに強制的に子供たちを押し込んだ。学校は時の政府が作ったものであるが、その経営は当時のカナダのキリスト教会に任せられ、カソリックがその任に当たった。

昨年、このカソリックの学校の近くで、そこに通っていたとされる数百人の子供たちの遺骨が発見された。法王は到着早々に、車いすに乗ってその場所に向かった。最初に到着したのが、クリー(Cree)の墓地だった。この墓地の墓の大部分は、十字架に色を塗られ、生誕の時の民族のシンボルが描かれている。法王は墓地の中の道を周りながら、腕を組み、何かを考え込んでいたようだ。法王は「恥」を表明する前に「憤り」を感じていた。法王はここへ来る数カ月前から、カソリックの罪を自分の罪の如く感じ、血の滲むような日々を過ごし、また当時の聖職者たちがキリストの教えを実践できなかったことに、深い疑問も感じていたのである。

多くの村々の中、特にメーティスやイヌイットの村の長老に、カソリックの非を述べながら謝罪している。法王は「多くのキリスト教徒が先住民族に犯した罪を神に謝り、神の子が犯した重大な過ちを詫びたい。」と表明し、白い半球帽を取り、手を胸において謝罪した。この姿を見た先住民族クリーの国主ハンディー・エルミネスキンは次のように語っている。「私もこの学校に通った一人だ。私の両親と同じように。今、天国から私を見届けているだろう」。さらにモンタナ村の主、ウィルトン・リトルチャイオは学校の外で次のように語った。「これからは、法王が話したような和睦の道を歩んでいくことだろう」。

古い学校について言えば、それはもうほとんど何も残っていない。前世紀の写真があるのみだ。法王の話聞き、多くの教会のメンバーは涙を流し、また今後の通り方について語った。1831年から1996年の間に139校もの学校が創設されたが、そのうち66校が時の政府によるものだった。約15万人の子供が両親や家から引き離され、学校では出身地のことは全て否定され、先住民族の記憶が抹殺された。英語を話さないものは殴られた。疫病、暴力、婦女暴行が横行し、その犠牲者の数は3千人から6千人にも上ったとされる。

## ベツチャー枢機卿に枢機卿会議への出席を要請

法王フランチェスコは2020年9月から、ロンドンの建築物の購入に関して、ヴァチカンの財政会議に諮らず購入して、ヴァチカンに莫大な赤字をもたらしたということで、その責任を問い、ベツチャー枢機卿が持っていた数々の役職を剥奪した。その後、ベツチャーは表社会に出ることはなかった。しかしそれから2年経った今年8月28日、30日、31日に開

かれる枢機卿会議に出席するように、法王自らがベツチャーに電話をかけた。ベツチャーは、この法王の行動に非常に感激した。

法王は、ベツチャーを許したように思われるが、しかしながら上記の訴訟の結論はまだ出ていない。法王は個人的にはベツチャーを信頼しており、それなりに敬意を払っている。その証拠に、法王は2021年の聖ヨハネの日に謹慎中のベツチャーの住居を訪れ、そこで儀式をしているのだ。ベツチャーは、サルデニア島のアランチ湾でヴァカンスを過ごしていたが、法王からの電話の後、すぐにローマに戻る準備を始めた。

そして8月27日、枢機卿会議の前日ヴァチカンのミサで、サン・ピエトロ教会の右側最前列で右から二番目の席に座ったのだ。その顔には緊張感もあって、少し強張っていたが、満足していた様子だった。法王は祭壇から、その彼に挨拶の印をジェスチャーで示していた。ミサ終了後には、多くの枢機卿仲間がベツチャーに祝福を送っていた。

## 法王のウクライナ訪問の可能性

法王のウクライナ及びロシア訪問については、ヴァチカン内でも賛否両論がある。両国を訪問して、どちらかに有利になるとか不利になるとかの問題ではなく、もっと広く世界平和について語るべきだというものである。今年7月の末のカナダ訪問も、法王自身の体調を確認する要素があった。

法王は、移動する際には現在、車いすを使っている。それによって、どこまで移動が可能になるかが懸念されている。法王はウクライナに行くと同時にモスクワを訪問し、プーチン大統領とも会い、平和談議を行いたい意向を示している。そこまで、法王の体力があるかと周囲は気にしている。これまでにヨーロッパの首脳たち、さらに国連の総長がウクライナのキーウを訪問しているが、彼らは国際列車を利用していった。法王もまた、彼らと同様に列車に乗ってキーウに行こうという思いがあるが、これは体力的にもきつく、そもそも仕事の多い法王にはとても無理だろう。

法王のキーウ訪問説は8月と出ていたが、これはすでに時期が過ぎてしまった。もう一つの説は9月だ。これは9月13日より15日までの3日間、カザフスタンでキリスト教の各派の首脳会談が開かれるからだ。そのため、モスクワではプーチン大統領に、カザフスタンではロシア正教のキリル大司教にも会うことになるだろう。法王は8月6日に、ヴァチカンのウクライナ大使を招いた。そして、近いうちにウクライナの土を踏み、キーウを訪れること、そしてできれば列車で移動したいと述べた。ウクライナ大使アンドリー・ユラーシュは次のように返事をした。「ウクライナの民は以前から、とりわけ戦争が始まってからはずっと、ローマ法王の訪問を心待ちにしています。法王がカザフスタンに行く前の訪問であれば、最高です。」しかし、本稿執筆時の8月30日現在、ヴァチカン側からは法王のウクライナ訪問については公式発表はない。